

校長室だより

平成18年7月10日

第 91 号 榎並っ子

大阪市立榎並小学校長 小林 恵子

あいさつの効用

ある新聞に、中学生と高校生の次のような記事が載っていました。示唆に富んだ内容でしたので紹介します。

＝家族こそ心通うあいさつしよう＝ (中学生)

私は朝起きたら、家族のみんなに「おはよう」と必ず言います。もちろん、「おやすみなさい」「いただきます」「ごちそうさま」なども言っています。

家族の間であいさつしないという友だちがいて、驚きました。先生や先輩にはあいさつするけど、家族にはあまりしないという人が増えているようです。会話も減っていると聞きました。両親とも働いている家庭が増え、家族みんなで一緒にいる時間が少ないからあいさつを交わさなくなっているのかなと思います。

私は、家族から「行ってらっしゃい」と言われると、元気が出ます。家族だからこそ、あいさつしてほしいと思います。あいさつを交わし、そこから会話が生まれるようになってほしい。何でも話せるのは、家族だけだと思います。



＝母の声は「安らぎ」なのに・・・＝ (高校生)

「お帰りなさい」「お疲れさま」「ありがとう」「学校、楽しかった？」－。

家に帰り着き、聞こえてくる母の声。高校生にもなると思われるかもしれないが、私を安心させてくれる大切な声だ。時に私を叱り慰めてくれる。17年間育ててくれたその声は、私にとっての「宝物」。ほんの一言、短いあいさつだけでも聞かないと、その日は何だか落ち着かない。しかし、最近の世の中は、どうも私のようにはいかないことが多い。親子のきずなは薄れ、親が子を子が親を殺害する。そんな事件が続発している。むしゃくしゃしたから怒られてむかついたから、そんな理由で義務教育も終えていない子どもが、親を殺害・・・彼らにとって、親の、母の声は「安らぎ」ではなく「殺意」をもたらすものでしかなくなってしまったのだろうか。私は、理解に苦しむばかりだ。

ところで、本校でも、子どもたちの登校の様子を見てみると、明るく元気な声で「おはようございます」とあいさつのできる子、だまって通りすぎる子などさまざまです。朝、子どもたちが、さわやかな気持ちで登校するようになると、自然にあいさつができるようになるのではないかと思います。親子で、あいさつの大切さについて話し合ってみてください。

〔保健ふりかえりカード〕 - 6月の達成度62.1% -

5日に各家庭に配付された「ほけんだより」に、6月に実施した「保健ふりかえりカード」の結果が載せられていました。本年度は、1週間の生活をふりかえってみて、めあてを立てることになっていますので、子どもたちにとっては、一番守りにくいめあてになっています。子どもたちが、自分のめあてにあげたので一番多かったのは「はやく寝ることができる」で、昨年度と同様4人に1人の子どもが、1年間の自分のめあてにしているようです。

さて、養護教諭の方で、6月の集計をしたところ「はやく寝ることができる」の達成度は61%でした。因みに、めあての守れているベスト3は、その他を除くと、1位「食事の前の手洗いができる」（82%）2位「朝の歯磨きができる」（76%）3位「夜の歯磨きができる」（71%）でした。

親子で健康な生活を送ることの大切さについて話し合い、達成度が100%になるようがんばってほしいものです。

〔天の川にかかるとはし〕 - 紙芝居を全校にテレビ放映 -

5日の給食時に、図書委員会の子どもたちが、7月7日の七夕に因んで、紙芝居「天の川にかかるとはし」を全校にテレビ放映しました。当日は、栄養職員の方と一緒に3年2組の教室で給食を食べていましたので、紙芝居が放映された時の子どもたちの様子がよく分かりました。

美しい色彩の紙芝居を図書委員会の子どもたちが、とても上手に読んでいたので、子どもたちは、給食を食べながら一生懸命放映されている紙芝居を見ていました。

短い時間の放映でしたが、「織姫と牽牛」の紙芝居は、子どもたちに夢を与えてくれたことと思います。

